



## 知エネルギーニュース

たくさんのナベヅルが越冬できる環境づくりに協力しています。

山口県周南市にある出光の徳山製油所・工場から、ナベヅルの越冬地づくりについてお伝えします！世界に1万羽しかいなく、絶滅が心配されているナベヅル。周南市では明治初期頃から捕獲を禁止し、現在も条例で保護しています。しかし、自然環境の変化により、ツルが生息するために必要な餌などが減り、渡って来るツルも1940(昭和15)年の355羽をピークに年々減少。今ではほとんどのナベヅルが鹿児島県出水市で冬を過ごしています。一箇所に集中して生息すると、鳥インフルエンザなどの伝染病が流行ったときに、絶滅する危険があります。

「このままではツルがいなくなってしまう」と考えたNPO法人「ナベヅル環境保護協会」は、もう一度ツルに良い環境をつくろうと呼びかけ、周南市の八代盆地で越冬地の整備を始めました。

現在、18社の工場がならぶ周南市のコンビナートの中でも参加しているのは出光だけ。もっと多くの人に手伝ってもらおうと、徳山製油所・工場では中国四国支店などにも呼びかけています。周南市で越冬するナベヅルはまだ数羽ですが、これからも地域の人たちと協力して、ツルと人が共生できる環境をつくっていきたいと考えています！



灰黒色胴体と白い首。  
目のまわりが黒く、アイマスクをしているように見えます。



冬になると、世界中のナベヅルが日本に集まってきます。



ナベヅルを守る越冬地づくりに取り組む、  
出光従業員&OB。

【2010/3/18 公開（内容は公開時点のものです）】